

2022(令和4)年度 自己評価・学校関係者評価報告書

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

東大阪市菱屋西 3-3-7 ☎577-8550

学校教育法第28条及び学校教育法施行規則第39条により、2022(令和4)年度の自己評価及び学校関係者評価を実施し、設置者に報告した内容

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」、即ち、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 2022(令和4)年度重点的に取り組む目標・計画

- 子どもが主体となる生き生きとした保育を支える教師力・保育力の向上や環境構成を目指す。
- ・幼児期に大切な教育と教員間での保育観の共通理解、保護者理解の研修を行う。
 - ・外部講師を招いての保育研修を行う。
 - ・子どもが安全に、そして安心して遊ぶことができるよう、遊具・設備の点検整備を含む危機管理に努める。
 - ・長期休暇中の預かり保育を本格的に始動する。
 - ・キンダーカウンセリング事業を継続する。
 - ・コロナ禍3年目になるので、これまでの経験をもとに、できるだけ密度の濃い関わりをさぐる。
 - ・幼稚園活動の広報に努め、入園者の確保を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

中長期計画における目標・アクションプラン(実行計画)期末評価

評価記号の説明:

| | | | |
|----------------------|-----------------|------------------|-----------|
| S : 計画通り(以上を含む)実施した、 | 或いは大きく成果を上げた、 | 或いは目標数値を達成した | 90～100% |
| A : 計画をほぼ実施した、 | 或いは一定の良い成果を上げた、 | 或いは目標数値をほぼ達成した | 80～ 90%未満 |
| B : 計画をある程度実施した、 | 或いはある程度の成果を上げた、 | 或いは目標数値をある程度達成した | 60～ 80%未満 |
| C : 計画を下回って実施した | 或いは成果はあまりなかった、 | 或いは目標数値より大きく下回った | 10～ 60%未満 |
| D : 計画を大きく下回って実施した | 或いは成果はない | | 1～ 10%未満 |
| E : 計画を実施しなかった(評価外) | | | 0% |

| 大分類 (課題) | 中分類 (基本施策) | 小分類 (具体的施策) | 2022 年度 | 2022 年度期末評価 | | |
|-------------|----------------|--------------------------------|---|--|--|--|
| | | | 目標数値 | 単年度 (2022) のアクシ ョンプラン に対する 達成度 (%) | 単年度 (2022) のアクシ ョンプラン に対する 評価 | 単年度(2022)のアクション プランに対する 定性評価(コメント) |
| 入園者の確保 | (1) 教育の質の向上 | a. カリキュラムの充実 | ・保育内容の検証と改善のサイクル定着 | 80% | A | |
| | (2) 職員の質の向上 | a. 職員間の共通理解 | ・全職員が共通理解を図るためのミーティング実施(年3回) ・可視化した保育内容の更新 | 100% | S | |
| | | b. 研修の充実 | ・現在の園内研修(園内公開保育)について、実施内容・時期の見直しと改善 ・外部講師の依頼 | 90% | S | 外部講師による絵画指導の研修もできた |
| | (3) 子育て支援の充実 | a. 長期休暇中の預かり保育の実施 | ・夏・冬休みの預かりについて実施後、検証と改善 | 90% | S | |
| | | b. 給食の増加 | ・週3回の給食の実施 | 100% | S | |
| | (4) 商圏エリアの拡大 | a. 車送迎の実現 | ・本格導入の検証と改善 | 80% | A | |
| | (5) 広報活動 | a. ポスター貼り、広告配布、Web広告、ホームページの充実 | ・新しい広報媒体を含め、有効な広報媒体の活用・検討 | 80% | A | |
| 未就園児の確保 | (1) 未就園児クラスの充実 | a. 保育時間の延長 | ・2022年2月～5月にかけて弁当(給食)を実施し、年少クラスへの移行方法を含め検証、秋以降の実施を目標化 | 70% | B | 1月からは、弁当持参となっているが、開始時期と、年少クラスへの接続については検討が必要か。 |
| | (2) 園庭開放の充実 | a. 広報、SNSの強化 | ・改善した広報の実行 ・引き続きアンケートを通して広報の効果の検証(来場者数:30人以上) | 80% | A | |
| | | b. 内容の充実 | ・実施時に行ったアンケートや、他園の取り組みを参考に、内容の検討、充実 | 80% | A | |
| 安心・安全の確保 | (1) 環境整備 | a. 点検・修理・修繕 | ・点検シートをもとに日々の点検、必要な修理 ・修繕計画をもとに実行 | 80% | A | |
| 大学・高校との連携 | (1) 様々な学科等との連携 | a. 健康栄養学科との連携 | ・学科と連携して試行 | 100% | S | |
| | | b. 化粧ファッション学科との連携 | ・学科と連携して試行 | 60% | B | 学科長、連携可能と思われる教員との話し合いを始めたが、ゼミ学生が多いなど協力求める方法について検討が必要 |
| | | c. 児童教育学科との連携 | ・児童教育学科との連携強化 | 70% | B | |
| | | d. SILC(樟蔭国際学習センター)との連携 | ・SILCと連携して試行 | 50% | C | |
| | | e. 児童教育コース(高校)との連携 | ・児童教育コースとの関係を維持する | 80% | A | |
| 地域との連携 | (1) 地域交流の充実 | a. 幼稚園行事の地域開放 | ・地域と連携して試行 | 0% | E | COVID19の影響で見通しが立たない |

4. 総合的な評価結果

- ・保護者どうしや保護者との交流、園全体での活動が一部ではあるができるようになった。
- ・行事としては、COVID19の影響があるなかで形態を変えるなどして、以前のように実施できるものが増えた。
- ・キンダーカウンセリング事業は件数も増え、浸透してきている。
- ・外部の講師を招いての研修やオンライン研修等に積極的に参加し、一人ひとりの資質向上に努めることができた。また、全教員が保育観を共通理解し、個々の園児についての情報を共有することができた。
- ・制限がある中で、園庭開放の機会をとらえて保育相談にも乗りながら、より多くの就園前の保護者と会話することができ、入園に結びつけることができた。

5. 今後取り組む課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|----------|--|
| 子育て支援の強化 | 未就園児クラスの保育時間延長を検討する。 園庭開放を通常に戻し、より多くの人に幼稚園に足を運んでもらえるようにする。 キンダーカウンセリングを身近なものと感じてもらえるよう周知方法を検討する。 |
| 保護者対応 | HPを通じてのお知らせや掲示等での保護者との連携強化をさらに図る。 |
| 危機管理の対応 | 施設の老朽化にともなう園内外の環境の改善に努める。また、熱中症対策を継続する。 |

6. 学校評価委員会(学校関係者による評価委員会)の評価

評価委員会：2023(令和5)年3月22日実施

- ・保育理念を貫いていることは素晴らしく、貫いてほしい。
- ・保育理念を変えることなく、附属幼稚園の魅力を打ち出す。
- ・体験型幼稚園ということで、人との関わりや経験を大事にしている。
- ・「根っこを育てる」という言葉が響いている。

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。